

報 告

- ◎ [平成16年度森林総合研究所研究成果発表会「日本の生物多様性保全研究の現状とこれから」を開催](#)  
◎ [講演会「スギ等地域材の有効利用技術の開発と需要拡大を目指して」を開催](#)

◎ 平成16年度森林総合研究所研究成果発表会「日本の生物多様性保全研究の現状とこれから」を開催

平成16年度研究成果発表会を、去る10月19日（火）午後から東京都千代田区のイイノホールにおいて開催しました。

尾崎研一 北海道支所生物多様性担当チーム長は、里山の森林は開発等により、連続した森林から小さな断片へと変化した結果、本来森林に生息する種が減少し、周辺環境からの移入種が増加していること、このような孤立・分断化の影響は、鳥、昆虫、植物といった生物群によって異なることなどについて発表しました。日野輝明関西支所 野生鳥獣類管理担当チーム長は、二ホンジカの増加に伴い崩壊に瀕した大台ヶ原の森林において、シカ、ネズミ、鳥、ササ、樹木実生、節足動物、土壌間での相互作用を明らかにし、森林生態系再生のためのシカの密度管理や植生管理方策について発表しました。大河内勇森林昆虫研究領域 昆虫多様性担当チーム長は、小笠原諸島の固有生物からなる生態系は移入生物の侵入によって急速に崩壊していること、生態系の崩壊を食い止め回復させるための戦略と方法などについて発表しました。

今年是一般の方を始め、行政、大学、民間会社、関係団体等約200名の方々に参加いただき成功裡に終わることができました。また、会場ロビーにおいて、平成15年度の主要な研究成果をパネル紹介するコーナーを設け、森林総合研究所が取り組んでいる研究成果の普及広報を行いました。



◎ 講演会「スギ等地域材の有効利用技術の開発と需要拡大を目指して」を開催

林野庁の後援ならびに関係各機関の協賛を頂き、10月25日に東京都千代田区のイイノホールにて開催しました標記の講演会には、全国から253名の方に参加していただきました。この講演会は、森林総合研究所が地域材の需要拡大を目指した新規プロジェクト研究の企画・立案に向けて、広くご意見をいただき、研究計画に反映させることを目的として開催いたしました。

講演では、川上（原料供給）から川中（製造）を経て川下（消費）に至る、木材供給、構造用材の製造、製品の規格、残廃材の利用について、それぞれの専門分野の方々から現状報告を頂きました。木材供給の立場からは林業経営の多様化と製材品以外の木材製品に対する認識、木材製品に関しては弾力的な規格の制定・運用の必要性、残廃材利用促進の立場からは有用資源としての認識の重要性が指摘されました。

後半の討論会では、パネリストや会場の参加者からの話題提供に続き、スギ等国産針葉樹材に対して、消費者へ向けたPR、安定的な供給システム、建築基準法の性能規定化にあわせた規格の整備、地域特性を反映した性能の明確化、林地所有の問題点など、幅広い議論が会場からの討論参加者を交えて活発に行われました。

